

## 第8回村上記念「胃と腸」賞 贈呈式開催さる

第8回村上記念「胃と腸」賞の贈呈式が7月13日夜の早期胃癌研究会例会（於・エーザイ本社5階ホール）にて行われました。今回の受賞論文は次のとおりです。

「十二指腸潰瘍の natural history」

山田直行・早川和雄・福地創太郎

秋山 洋・中島幹夫（虎の門病院）

（「胃と腸」17巻7号：773～784頁，1982）

贈呈式は7月度例会幹事の並木正義先生（旭川医科大学第3内科教授）の司会のもとに進められました。著者の福地・山田・早川の3先生が登壇され、早期胃癌研究会代表市川平三郎先生（国立がんセンター病院長）より賞状・賞牌・賞金が贈呈されました。引き続き市川先生より今回から「村上記念「胃と腸」賞」と改称された由来について次のようにお話がありました。

「村上忠重先生（元東京医科歯科大学第1外科教授）は今から30年近く前より何万枚もの連続切片を検索して胃癌の初期像の解明に絶大な情熱を傾け、世界に冠たる業績を挙げられた。村上先生を中心に自然発生的に研究が盛り上がり、早期胃癌研究会の発足、また「胃と腸」誌の創刊（昭和41年）をみ、以来わが国の早期胃癌診断学は世界的評価を受けてきた。村上先生は昭和53年まで第一線で活躍されたが、残念ながら病に倒られ今日に至っている。一昨年大学を退官され、また早期胃癌研究会代表も辞退されたが、村上先生の業績を称えるために今回から従来の「胃と腸」賞にお名前を冠することになった。本賞は、世上多い賞とは違い、政治的配慮などない、非常にまじめな賞なので、今後とも優秀な論文をお寄せいただきたい。」

更に選考委員の一人武藤徹一郎先生（東京大学第1外科助教授）が、「本論文はオリジナリティに富み、わかりやすい論文スタイル、また臨床への貢献度の点で優れ、十二指腸潰瘍の自然史を長い間かけてまとめたことが高い評価を受けた。」と選考経過を説明し、祝辞を述べました。

最後に受賞者の山田先生が、「夢にも思わなかった受賞で感激している。ガストリン、ソマトスタチンを中心に検討が続けてきたが、今回の受賞で研究の土台ができたように思う。十二指腸潰瘍は再発しやすいので再発防止が課題だ。10年後に natural history を書き変えることができるようがんばりたい。」と喜びの言葉を述べ、式は終わりました。



入賞牌を受ける山田氏



受賞の早川・福地・山田(左から)の各氏



受賞の喜びを語る山田氏



祝辞を述べる市川氏



選考経過を説明する武藤氏



司会の並木氏



満席の会場での贈呈式